



**高知港長期構想検討委員会
第3回委員会資料**

～港湾計画見直しの方向性～

令和元年 9 月

高知県

3. 港湾計画素案

3.3 高知港の基本戦略 ②地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成

将来像	産業振興や経済成長を牽引する物流・生産拠点としての“みなと”
基本戦略	②地産外商を支え、県内企業の国際競争力を強化するための国際コンテナ物流拠点の形成
具体的取組	①【三里地区】-8mコンテナ岸壁の増深

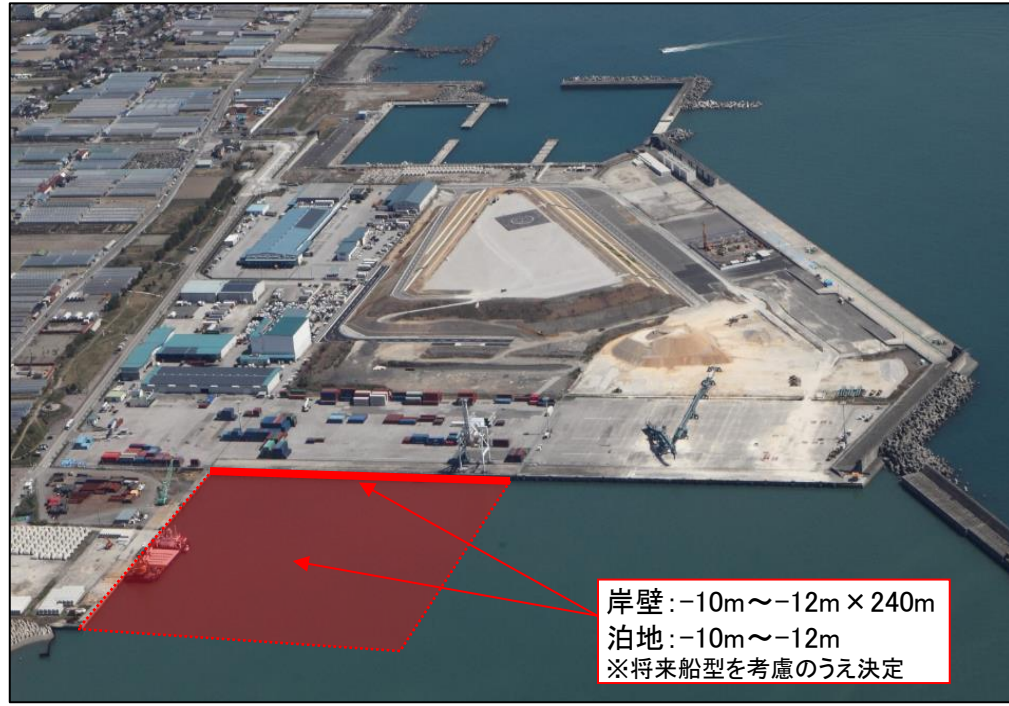
【現状・既定計画における課題】

- 高知港は県内唯一のコンテナを取り扱う港湾で、三里地区の-8m岸壁を利用
- 寄港している外航コンテナ船のうち、1隻は岸壁水深不足のため喫水調整をして入港しており非効率な状態
- 県内の農林水産物等の輸出拡大に向け、必要な港湾機能の向上や物流サービスの提供が望まれる
- 中国・韓国航路のコンテナ船は今後もさらなる大型化が見込まれる

【今回計画における対応】

- 三里地区-8m岸壁を-10m~-12m岸壁へ計画変更し、コンテナ船の大型化に対応した係留機能の強化を図り、コンテナ物流の安定化、県内企業の国際競争力向上を図る。
※-12m岸壁利用船舶に対応可能なガントリークレーンを整備中(R2.3末完成予定)
- 高知港に寄港する航路便数の増加や東南アジアへのダイレクト航路の開港など、利用需要の多い航路の誘致を図り、国際コンテナ物流拠点の形成を目指す。

【高知港三里地区】



- 高知港三里地区の西工区の整備は早期に完成しないため、石灰石の増産計画への対応や-8m岸壁増深工事中等における、岸壁の利用の方向性を検討していく必要がある。
- 7-1岸壁増深工事、仮防波堤前面の埠頭整備により、フェリー・RoRo船への対応が可能となるとともに、大型外国クルーズ客船の複数同時接岸、新規貨物への対応も可能となり、物流・交流拠点として本県産業振興に大きく寄与。

【高知港三里地区岸壁利用の方向性(案)】



港湾利用者と十分協議、調整を行ったうえで、具体的な利用方策については高知新港振興プランフォローアップ委員会で検討

将来像	国内外の旅行客や市民に開かれた交流の場としての“みなと”
基本戦略	④地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成
具体的取組	①【潮江地区】良好な水辺空間に市民や観光客が集い、レジャー等を楽しむことができる空間の形成

【現状・既定計画における課題】

○ 中心市街地から至近距離にある高知港臨海部には、憩いや潤いのある空間が不足していることから、既定計画では水際線を有する良好な眺望に恵まれている潮江地区の特徴を生かした緑地計画(緑地、交流拠点用地)を位置付けているが、未整備である。

【今回計画における対応】

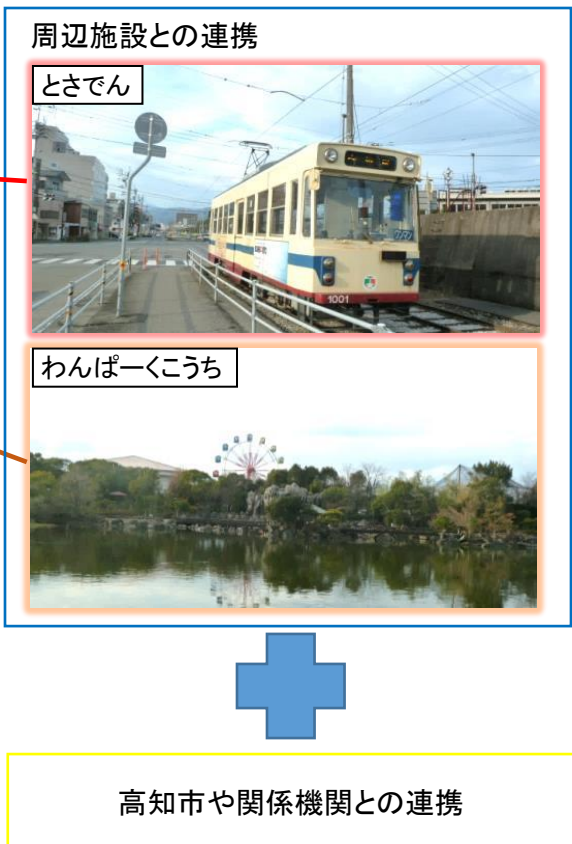
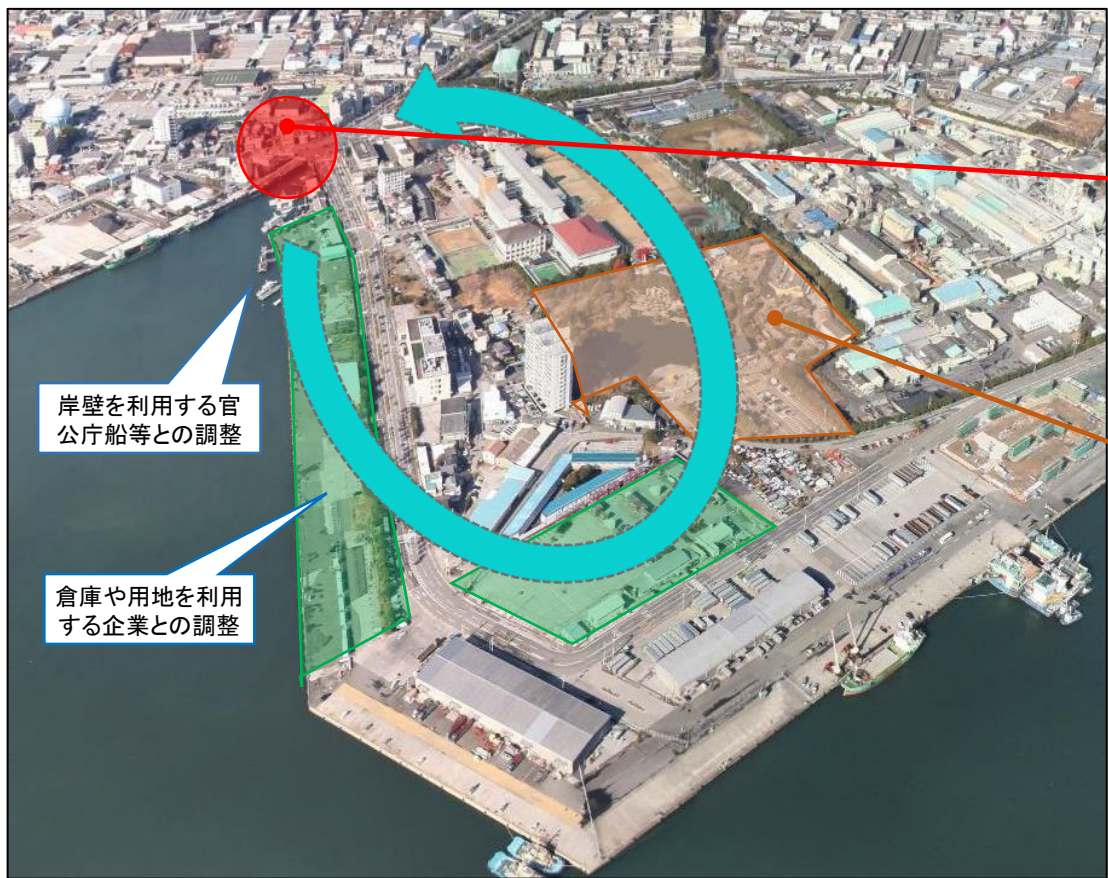
○ 「みなと」と「まち」が融合した魅力ある空間づくりを目指していくため、既定計画の緑地については、今回計画でも引き続き潮江地区に位置付け、実現に向け事業を推進する。
 ○ ただし、緑地面積や交流拠点用地については周辺施設等の連携や民間資金の活用等を検討の上、見直しを行う。

【高知港潮江・港町地区】

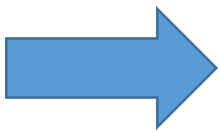


■今回、港湾計画改訂に位置付ける予定である高知港潮江地区の賑わい空間の形成にあたっては、周辺施設(わんぱく高知、とさでん他)と連携を図っていくとともに、高知市や関係機関とも連携し、港の開発のみならず周辺施設と一体となった「まちづくり」を検討していく必要がある。

【高知港潮江地区賑わい空間の形成に向けて】



【第一段階】
◆岸壁や背後用地の利用状況の把握
◆利用者との調整



【第二段階】
◆周辺施設や高知市及び関係機関との連携
⇒今後の「まちづくり」の検討の場の設置等
関係機関が連携して取り組む

3. 港湾計画素案

3.3 高知港の基本戦略 ④地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成

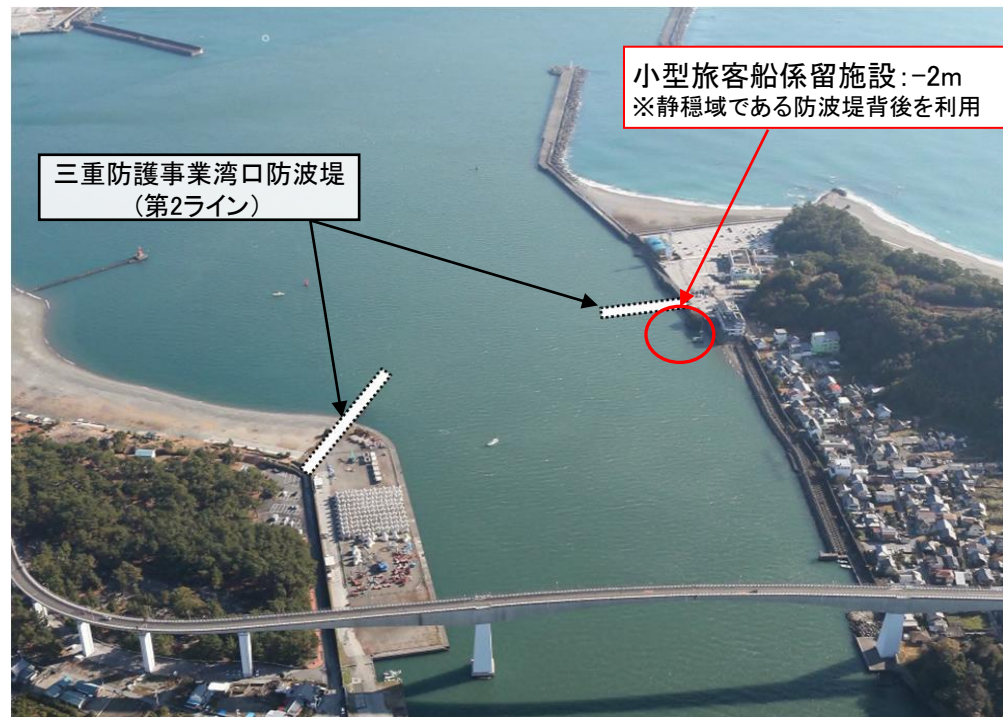
将来像	国内外の旅行客や市民に開かれた交流の場としての“みなと”
基本戦略	④地域の魅力や観光資源を活用した賑わい空間の形成
具体的取組	②高知港内における小型旅客船ネットワークの構築

【現状・既定計画における課題】

- 既定計画では「桂浜の更なる魅力向上のため、桂浜防波堤周辺を新たな観光客の受け皿となるよう景観を整える整備を進める」ため、桂浜への海上からのアクセスとして、桂浜地区に小型旅客船係留施設を位置付けているが、未整備である。

【今回計画における対応】

- 浦戸湾や周辺の観光資源を活かすため、高知港内に市民・観光客の足となる小型旅客船ネットワークを構築し、水辺と各施設の回遊性向上を目指す。
- そのため、既定計画の【桂浜地区】小型旅客船係留施設は、今回計画でも引き続き位置付ける。



3. 港湾計画素案

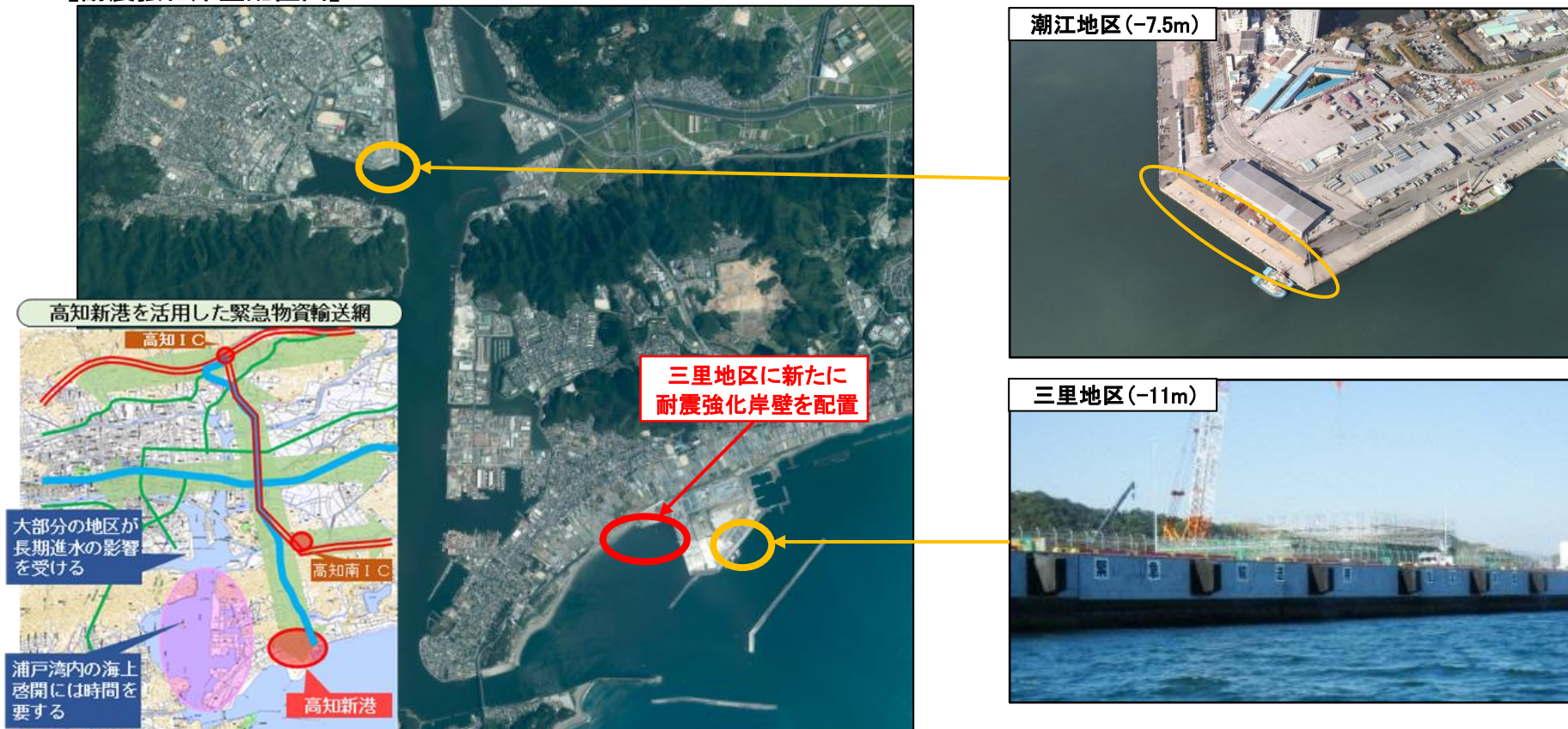
3.3 高知港の基本戦略 ⑤安全な企業活動や安心な暮らしを維持するための港湾の防災機能強化

将来像	自然災害や老朽化に対する安全や安心を確保する場としての“みなと”
基本戦略	⑤安全な企業活動や安全な暮らしを維持するための港湾の防災機能強化
具体的取組	②防災拠点港としての機能強化【三里地区】耐震強化岸壁の整備

【今回計画における対応】

- 既定計画では、潮江地区(-7.5m)と三里地区(-11m)に耐震強化岸壁を計画し整備済みである。
- しかしながら、背後圏人口に対する緊急物資必要量から必要となる整備箇所(バース数)は、3箇所であり、1バース不足している。
- 浦戸湾内(内港)は、長期浸水の影響や津波漂流物の影響を受けるので、外港にある三里地区に新たに耐震強化岸壁を計画する。

【耐震強化岸壁配置図】



3. 港湾計画素案

3.3 高知港の基本戦略 ⑥既存ストックの適正管理と有効活用するための戦略的ストックマネジメントの推進

将来像	自然災害や老朽化に対する安全や安心を確保する場としての“みなと”
基本戦略	⑥既存ストックの適正管理と有効活用するための戦略的ストックマネジメントの推進
具体的取組	②利用状況や将来的な利用計画に応じた機能の集約や見直しによる埠頭の再編

【今回計画における対応】

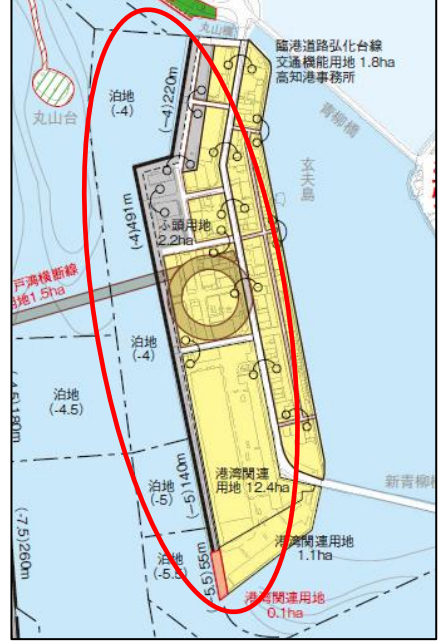
- 高知港(浦戸湾内)の港湾施設は、高度経済成長期である昭和40年代に整備された施設が多く、老朽化が進行
- 浦戸湾内の港湾施設は、利用水準や将来の利用動向を見据え、施設の廃止や物資補給岸壁(不荷役バース)への転換など、機能の集約化や必要なスペックへの見直し等を図ることにより、コンパクトで効率的な埠頭へ再編していく。

利用状況や将来的な利用計画に応じた機能の集約や見直しが必要な区域

【高知港潮江・港町地区】



【高知港弘化台地区】



【高知港仁井田地区】

